

令和3年度 第1回 労働衛生委員会 議事録

日時:令和3年7月 14 日(水) 15:00 - 16:50

場所:オンライン(zoom)

出席者:

【委員】笹原委員長(筑波大)、村井委員(JAEA/JAXA)、木村委員(産総研)、森脇委員(高層気象台)、小森委員(関彰商事)、友常委員(コマツ)大井委員(筑波大)、道喜委員(筑波大)、堀委員(筑波大)、高橋委員(筑波大)

【顧問】熊岡顧問(土浦労働基準監督署)

【事務局】齋藤(記録)

(1) 旧：労働衛生専門委員会からの改組について

資料 1 を事務局から説明。

- 旧労働衛生委員会からの改組経緯について異存なし。

(2) つくば健康生成職域コホート調査（旧：生活環境・職場ストレス調査）について

資料2について、令和2年度に実施した予備調査の実施報告を堀委員から説明。

- 予備調査は2機関で実施。456 名から有効回答(回答率 18%)。
- 新型コロナウイルスに関連する指標についての調査も実施。

委員からの意見は以下のとおり。

- 予備調査の肯定意見が多かったが回収率が低い。回収率を上げたい。
- 調査に参加することのメリットが見えにくいことが回収率の低さにつながっているのではない。情報交換会に参加して良かったという意見も少ない。労働衛生委員会の意義と合わせて周知が必要。
- 新型コロナウイルス感染症に関する部分など参考になった。

⇒予備調査結果は筑協 HP にて周知する。

資料 3 について堀委員、笹原委員長より説明

- 「関連機関の職場環境ストレスや自殺者の予防」といった観点に加え、「健康になるための要因(=サリュタリーファクター(適度な運動、良好な人間関係など)」を分析することで関連機関職員の健康状況の向上につなげる、ひいては会員機関のメリットにつながる調査にする。
- 令和 3 年度の本調査では名称を「つくば健康生成職域コホート調査」変更する。

委員からの意見は以下のとおり。

- 目的を健康安全の向上に変えていくことは良いと思う。
- 回収率向上については事務局と連携して広報活動に力を入れていく。

- 健康生成という課題を出したことで多くの方に興味を持っていただければと考える。研究者が多い街で実情にあった仕組み・人の広報活動の方向性を考えていきたい。
- 県内の労災補償の結果が 509 件から 609 件と過去最高。自殺件数は 89 件と減少したがいまだに精神衛生上のストレスを抱えている人は多い。

(3) 情報交換会について

令和 3 年 5 月 26 日に開催した情報交換会について、資料4を大井委員より説明。

- 参加者数：26 名 事務局：1 名
- 参加者アンケートの結果では「参考になった」の割合が 88%。また「対面での開催がよかった」の割合が 88%だった
- 委員会としても担当者の意見が伺える良い機会。定期的を実施したい。

(4) 委員会の活動の広報について

- 調査精度を高める上で広報活動は非常に重要。一般的なコホート調査では専用のページが設けられることが多い。
- 調査の動画、パンフレット、ロゴを作成するのに委員会の活動費を使うことも考慮。作成した動画などは筑協 HP などで利用することを想定。
- 調査結果をプレスリリースなどで会員機関にも積極的に示していきたい。
- 健康生成論はあまり世の中に知られていない。個人だけでなく組織の生産性向上にもつながる。そのためにはこのようなことができるといった回答が示せるような調査報告につながると良い。

⇒事務局と周知方法について検討

次回委員会:令和4年2月予定

以上

《資料》

資料1 旧:労働衛生専門委員会からの改組について

資料2 第 8 回生活環境・職場ストレス調査予備調査報告書(案)

資料3 つくば健康生成職域コホート調査研究 検討WG報告

資料4 令和3年度第1回情報交換会開催報告

《参考資料》

参考1 令和元年度 第2回労働衛生委員会議事録(案)

参考2 筑協「労働衛生委員会」委員一覧

参考3 筑協「労働衛生委員会」運営要項